

参考資料 3 .

令和 6 年度 機関ごとの具体的な取組

各機関の取組状況

番号	機 関 名	取組状況
1	大阪市	
2	堺市	
3	八尾市	
4	松原市	要配慮者利用施設の避難訓練に係る講習会
5	柏原市	避難指示等の発令に着目したタイムラインの作成・更新・活用に関する事項
6	羽曳野市	
7	藤井寺市	ハザードマップの作成・周知等に関する事項・防災教育や防災知識の普及に関する事項
8	東大阪市	
9	大阪府	「大阪府河川防災情報」ホームページ及び「大阪防災アプリ」周知活動の実施
10	西日本旅客鉄道株式会社	
11	近畿日本鉄道株式会社	
12	大阪市高速電気軌道株式会社	
13	南海電気鉄道株式会社	
14	阪神電気鉄道株式会社	
15	阪堺電気軌道株式会社	
16	大阪管区 气象台	防災気象情報の改善に関する事項
		防災教育や防災知識の普及に関する事項
17	大和川河川事務所	まるとまちごとハザードマップの整備・更新・周知(訓練への活用)
		小中学校や地域を対象とした水災害教育の実施
		水災害意識啓発の広報
		住民一人一人の避難計画・情報マップの作成促進
		要配慮者利用施設の避難計画作成の促進および避難訓練の促進支援
		タイムラインに基づく訓練の実施／水防団(消防団含む)との伝達訓練の実施
		重要水防箇所の情報共有と関係市町等との共同点検の実施
		排水に関する訓練の実施
18	大和川右岸 水防事務組合	水防協力団体への加入
		大阪市立デザイン教育研究所との連携
		水防訓練
		水樋門鉄扉操作訓練

松原市の取組状況

（要配慮者利用施設の避難訓練に係る講習会）

取組機関名	松原市、大和川河川事務所、大阪府、気象台
具体的取組	要配慮者利用施設の避難訓練に係る講習会
主な内容	要配慮者利用施設による避難訓練実施のポイント抽出

○日時・参加者等

日 時：令和6年12月6日（金）14：00～16：00

場 所：松原市役所 8階 大会議室

参加者：34名（要配慮者利用施設の施設管理者等）

概 要：浸水想定区域内に位置する要配慮者利用施設の施設管理者等を対象に講習会を実施しました。避難訓練の実施率を上げることが目標に、各施設が問題点の共有をきっかけに実効性のある訓練方法等を学んでいただきます。

○当日の状況



ワールドカフェの様子



施設タイムライン作成の様子

○今後の予定

講習会に参加できなかった施設に対して「要配慮者利用施設の水害を想定した避難訓練の実施について（通知）」の送付や、講習会の情報を共有し実効性のある避難訓練を実施できるよう支援する予定。

柏原市の取組状況

(コミュニティタイムラインの作成演習)

取組機関名	柏原市、大阪府八尾土木事務所
具体的取組	避難指示等の発令に着目したタイムラインの作成・更新・活用に関する事項
主な内容	コミュニティタイムライン（大正西地区）の作成

概要

- 【実施日】令和6年2月11日（大正西地区）
- 【参加者】区長、自主防災組織等 約30名程度
- 【災害リスク】大和川、石川による洪水（一部土砂災害）
- 【演習の流れ】
 - 大阪府八尾土木事務所から地域に想定される洪水リスクに関する講話
 - ワークショップ形式により各町会単位でのコミュニティタイムラインの検討・作成
 - 各町会単位で発表を行い、地区全体で取組内容の共有

演習の様子



災害リスクに関する講話



タイムラインの検討・作成



地域の取組内容の発表



地域の取組内容の発表

災害種別	災害発生時の状況	避難指示等の発令	避難場所	避難経路	避難方法	避難物資	その他
洪水	大和川、石川の洪水	避難指示が発令される	指定避難場所	指定避難経路	徒歩	避難物資	避難物資の確保
土砂災害	大和川、石川の土砂災害	避難指示が発令される	指定避難場所	指定避難経路	徒歩	避難物資	避難物資の確保
地震	大和川、石川の地震	避難指示が発令される	指定避難場所	指定避難経路	徒歩	避難物資	避難物資の確保
火災	大和川、石川の火災	避難指示が発令される	指定避難場所	指定避難経路	徒歩	避難物資	避難物資の確保
その他	大和川、石川のその他	避難指示が発令される	指定避難場所	指定避難経路	徒歩	避難物資	避難物資の確保

コミュニティタイムライン【初版】

効果・課題等

- 各町会で実施されている自主防災訓練の一環として、洪水や土砂災害に関するコミュニティタイムラインの作成に着手された地区がございました。各地域の特性に応じて、情報共有や要配慮者の避難誘導などについて課題の洗い出しと対応策の検討を行いました。
- コミュニティタイムラインについて、初版を作成したのち計画を管理していくことやブラッシュアップをしていくことが重要であるが、町会の組織率が低下していることや、地域が高齢化していることで計画を実行性のあるものにできるかどうかは課題です。
- 参加者からは、コミュニティタイムラインの中で安否確認をどのように行っていくのかについて、町会が個人情報を管理することが難しいこともあり、今後どうしていくかの検討が必要であるという意見が多く聞かれました。

藤井寺市の取組状況

(LINEを活用した避難訓練及びマイ・タイムラインの作成機能の実装)

取組機関名	藤井寺市
具体的取組	ハザードマップの作成・周知等に関する事項・防災教育や防災知識の普及に関する事項
主な内容	LINEを活用した避難訓練及びマイ・タイムラインの作成機能の実装

概要

災害発生時の避難について、メッセージアプリ「LINE」を活用し、必要な知識等をいつでもどこでも簡単に確認できるものとして、市LINE公式アカウントに避難訓練機能を実装した。

訓練内容としては、風水害の際の避難を想定し、警戒レベル1相当の大雨の予報が出た時から避難完了までの時系列に沿って、避難先や自身が避難するタイミング、災害時の情報収集先等を確認できるものとなっている。なお、訓練は5分程度で実施できる内容として構築し、防災に関する知識があまりない方でも容易に実施できるものを目指した。

また、この訓練機能と併せて市LINE公式アカウント上でマイ・タイムラインを作成し、いつでも確認できる機能を実装した。

運用としては、LINE上での避難訓練を実施した後に、マイ・タイムラインを作成することで訓練で学んだ知識や避難に関して確認した事項を整理し、実際の災害時に活用してもらうことを目的としている。



▲ 避難訓練の画面の一部

マイ・タイムライン作成
機能の画面の一部



▲ 避難訓練のロゴ



効果

いつでもどこでも実施できる訓練とすることで、これまで日程などの理由により地域の防災訓練に参加していなかった方への防災知識の普及、また、繰り返し訓練を実施してもらうことで知識の定着につながる事が期待される。

大阪府の取組状況 (河川防災情報HP及び防災アプリの周知活動)

取組機関名	大阪府
具体的取組	「大阪府河川防災情報」ホームページ及び「大阪防災アプリ」周知活動の実施
主な内容	適切な避難行動につなげるため、講習会や防災イベント等において、府民向けホームページの紹介やYouTube動画を用いた操作方法の配信に加え、「大阪防災アプリ」の周知活動を行った。

ホームページ画面（PC）

ホームページ画面（スマホ）



配布チラシ

大阪防災アプリの利用マニュアル



大阪防災アプリの利用マニュアル動画（大雨・洪水編）



このたび、大阪防災アプリの利用マニュアル動画（大雨・洪水編）を公開しました。
大阪府ホームページに、公開しています。
(<https://www.pref.osaka.lg.jp/020090/shobobosai/odp-app/index.html>)
防災イベント等で、操作や機能を説明する際のツールとしても、ぜひご利用ください！
利用マニュアル動画は、地震や土砂災害についても作成予定です。
よろしくお願いします！

チラシ原本、ポスター、ロゴデータ、QRコード等の広報資材もご用意しております。
ご要望の際は、危機管理室災害対策課防災情報G(4869)までお電話ください。

大阪防災アプリの提供について

広報事例など紹介



ブース設置、チラシ配布、アプリ紹介



定例会見での利用マニュアル動画紹介
参考3-5



ブース設置、チラシ配布、アプリ紹介

大阪管区気象台の取組状況

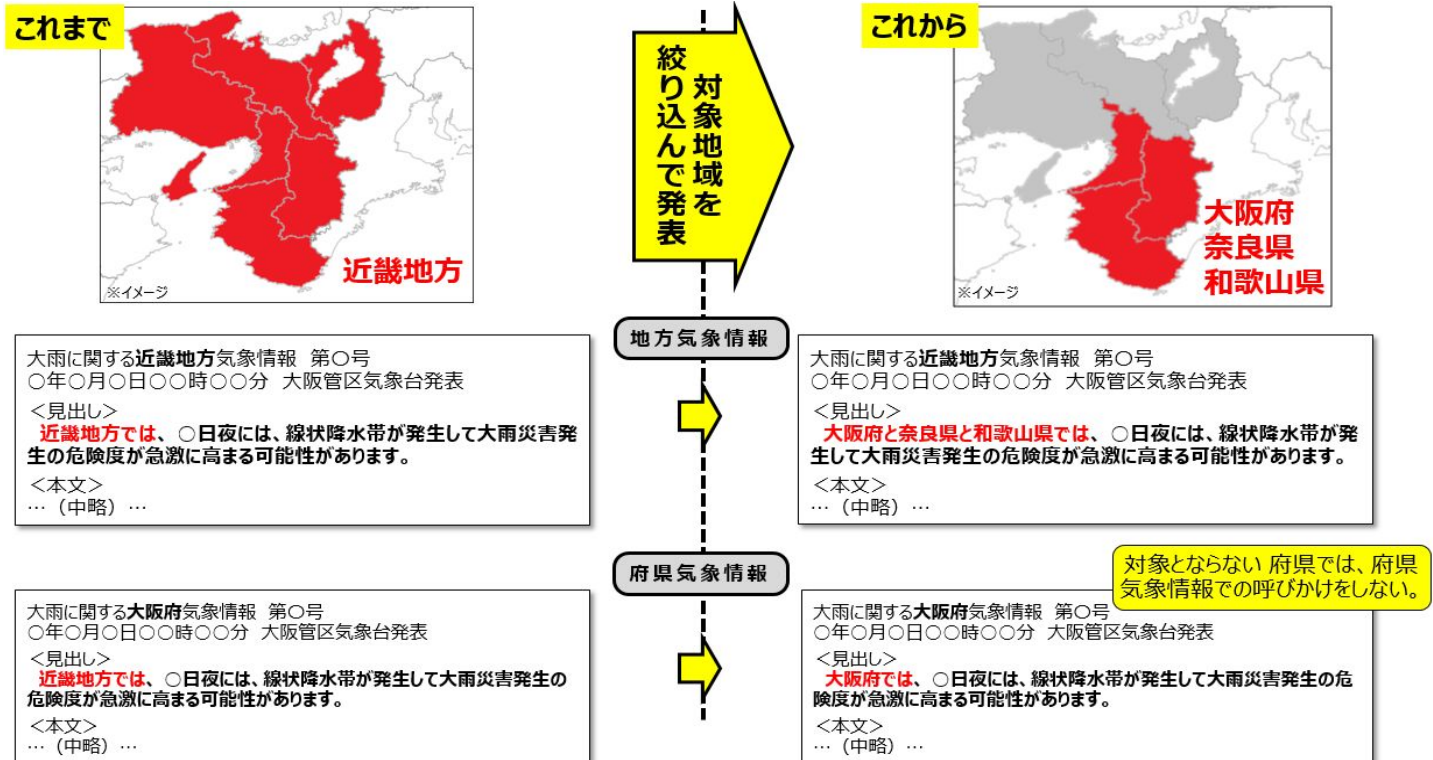
(防災教育や防災知識の普及啓発)

取組機関名	大阪管区気象台
具体的取組	防災気象情報の改善に関する事項
主な内容	「顕著な大雨に関する気象情報」の発表対象地域を地方予報区から府県単位に精緻化

概要

・「顕著な大雨に関する気象情報」について、線状降水帯による大雨の半日程度前から呼びかける対象地域を、これまでの地方単位から府県単位に絞り込んだ運用を令和6年5月27日（月）から開始。

「顕著な大雨に関する気象情報」の改善内容(令和6年5月27日実施)



※発表する情報の電文フォーマットは変わりません。

令和6年の実績～線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ～

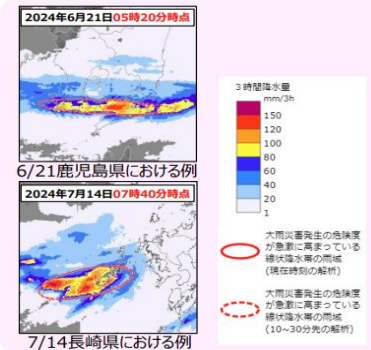
- 気象庁では、線状降水帯による大雨の可能性がある程度高いことが予想された場合、半日程度前から「線状降水帯」というキーワードを使ってその旨を呼びかけている。
- 線状降水帯の正確な予測は困難だが、予測技術の開発を進め、令和6年5月から府県単位での呼びかけを実施している。
- 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを実施したとき、実際に大雨となる可能性が高いことから、**この呼びかけが行われたときには、大雨災害への心構えを一段高めていただくことが重要**である。
- 令和6年における線状降水帯の事例数は、19事例※1（地方予報区単位）

※1 線状降水帯の事例の数え方は、線状降水帯の雨域は複数の県にまたがる場合もあるため、令和5年度以前と同様に地方予報区（全国を11ブロックに分けた地域）単位としている。

府県単位でのとりまとめ結果	運用開始前の想定 (令和5年のデータから検証)	令和6年
線状降水帯発生 の呼びかけ「あり」 のうち 線状降水帯の発生「あり」	25%程度 (4回に1回程度)	適中率 (高いほうが良い) 約10% (81回中8回)
線状降水帯の発生「あり」 のうち 線状降水帯発生 の呼びかけ「あり」	50%程度 (2回に1回程度)	捕捉率 (高いほうが良い) 約38% (21回中8回)

※2 線状降水帯の事例数と、府県単位での線状降水帯の発生「あり」の数は異なる場合がある。

- 線状降水帯発生
の呼びかけを行った81回中、線状降水帯の発生「あり」は8回であるが、それ以外にも、
・3時間降水量が100mm以上となったのは27回
あることから、**この呼びかけが行われたときには、大雨災害への心構えを一段高めていただくことが重要**である。



線状降水帯の発生をお知らせする「顕著な大雨に関する気象情報」は、現在、10分先、20分先、30分先のいずれかにおいて、以下の基準をすべて満たす場合に発表します。(令和5年5月25日以降)

- ① 前3時間積算降水量(5kmメッシュ)が100mm以上の分布域の面積が500km²以上
- ② ①の形状が線状(長軸:短軸比2.5以上)
- ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上
- ④ ①の領域内の土砂キキル(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)において土砂災害警戒情報の基準を超過(かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上)又は洪水キキル(洪水警報の危険度分布)において警戒基準を大きく超過した基準を超過

大阪管区気象台の取組状況 (防災教育や防災知識の普及啓発)

取組機関名	大阪管区気象台
具体的取組	防災教育や防災知識の普及に関する事項
主な内容	小学生や地域住民を対象とした水災害教育に関する普及啓発活動を実施

概要

- ・大和川沿川市町の松原市からの依頼で、夏休みの小学生親子を対象としたイベントでの出前講座を実施
- ・小学生に普段目にする天気予報のしくみや気象について興味をもってもらうとともに、身近な天気から地球温暖化等の影響について学んでもらうために実施（令和6年 8/1実施分）
- ・沿川市町の三市（藤井寺市・柏原市・松原市）による三市合同総合防災フェアで、気象や地震の普及啓発活動を目的に展示ブースを設置（令和6年 11/10実施分）
- ・大和川河川事務所や松原市と連携して松原市内の要配慮者利用施設のスタッフを対象に避難訓練に関連する講習会を松原市役所で実施（令和6年 12/6実施分）

令和6年度実績

- ・松原市まつばらテラス（輝）（8/1実施分）、藤井寺市の大和川右岸河川敷内（11/10実施分）

出前講座等の様子

8/1実施の出前講座



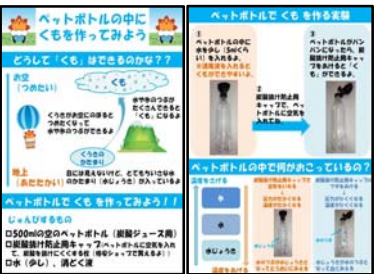
気象に関するクイズに対して手を挙げる児童

11/10実施の防災フェア



転倒ます型雨量計に興味を持つ親子連れ

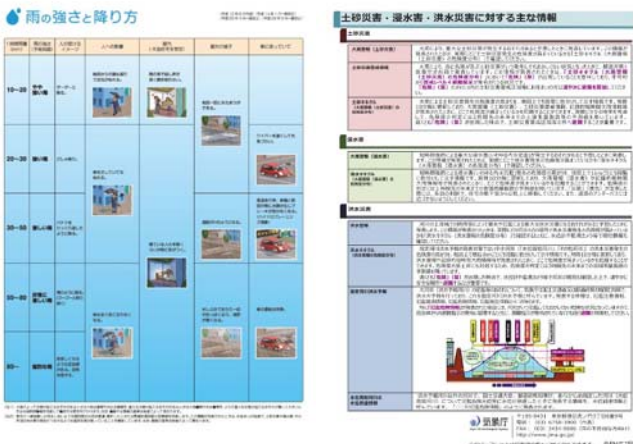
出前講座や防災フェアに用いた教材等



ペットボトル内で雲を作る実験



気象台HP「気象台作成！防災教材」



防災フェアで使った大雨に関するリーフレット類の一部

大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援 (Phase1に向けて)



水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	大和川河川事務所
具体的取組	【No.17】まるごとまちごとハザードマップの整備・更新・周知（訓練への活用）
主な内容	大和川流域自治体へのアンケート調査の実施 ・試行実験として標識設置に協力いただける自治体把握 ・標識設置に関する課題・要望調査

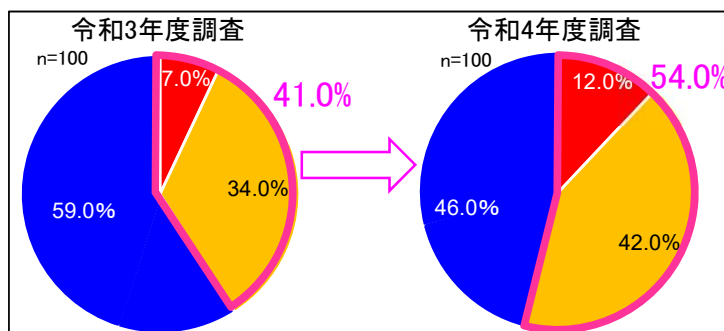
○ アンケート調査の概要

【日 時】令和6年9月6日～9月30日

【対 象】流域自治体

○ 試行実験実施の背景・目的

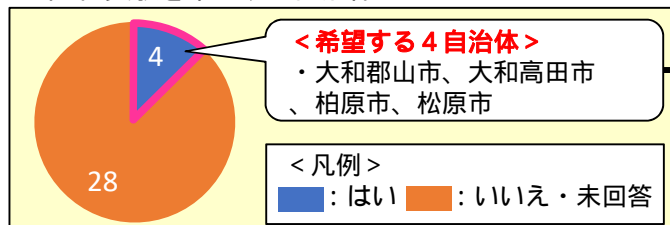
- 現行手引き策定以降、大和川流域において、標識設置数が0枚となっている複数市町存在する。
- 取組の進捗が低い理由の一つとして、具体的な効果や設置の進め方がわからないなどの意見がある。
- 藤井寺市では標識設置による住民防災意識への効果が把握されている（右図）が、設置密度や地域による分析はできていない。
- そこで、まるごとまちごとハザードマップ整備拡大の**試行実験**として、標識設置を市町と協働して実施し、住民防災意識の変化により標識設置効果の分析を進める。



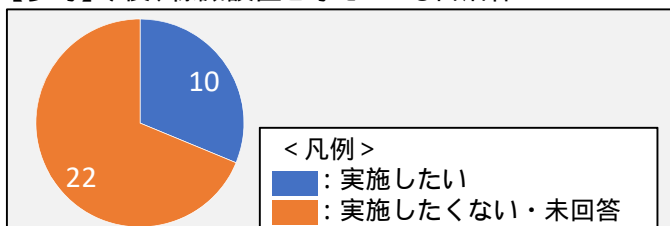
参考 藤井寺市の結果

○ アンケート結果

● 試行実験を希望する自治体



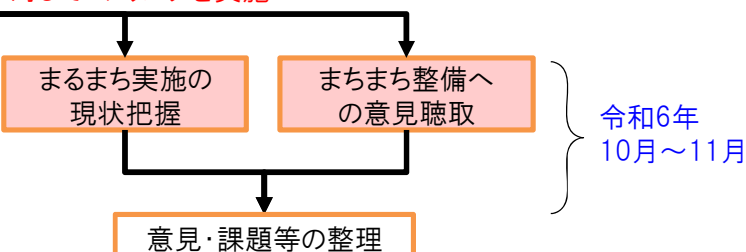
【参考】今後、標識設置と考えている自治体



	主な回答
実施したい	・浸水想定が住民に理解されやすいと考えるため ・標識設置することにより住民の目に留まり、防災意識の向上が期待できるため ・その有用性については理解しているため
実施したくない	・日常生活の中で水害の危険性について啓発できるツールではあるが、標識の設置・維持管理に係る予算確保が難しいため ・費用対効果が不明 ・人員不足

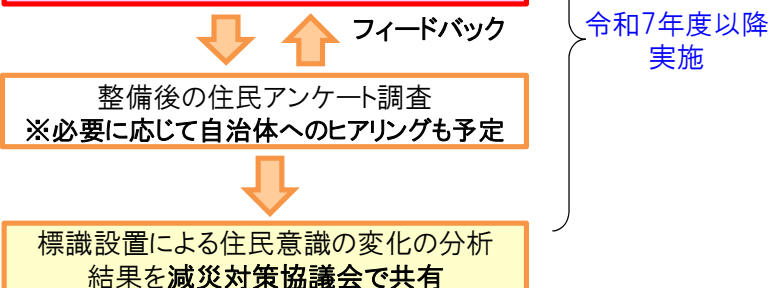
○ 試行実験に向けた調整と今後の対応

試行実験を希望する4自治体に対してヒアリングを実施



具体的検討

- (1) 標識設置箇所の検討(自治体と協働)
- (2) 標識設置形式の検討(自治体と協働)
- (3) 設置前の住民意識調査(河川事務所)
- (4) まるまち標識の設置(河川事務所)



令和7年度は、試行実験希望の4自治体で標識設置予定

大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援 (Phase1～5に向けて)



水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	大和川河川事務所
具体的取組	【No.22】小中学校や地域を対象とした水災害教育の実施
主な内容	・大和川の付け替えの歴史 ・大和川の概要 ・流域治水について ・はたらく車について（災害対策車両） ・クイズで学ぶ防災知識 ・質問コーナー

開催概要

- 日 時：令和6年12月19日(月) 10:45～11:30
- 場 所：岸和田市立城東小学校
- 参加者：岸和田市立城東小学校4年生36名 教職員3名
大和川河川事務所 係員3人
※大和川を多くの人に知ってもらうために事前申込みのあった小学校を対象とした

○活用資料・防災教育の様子

●活用資料



防災アニマル診断の クリアファイル

●防災教育の様子



← 岸和田市総合防災マップを使用し、身近な場所の危険性について調べて貰いました！



← 防災に関する知識について、クイズで楽しく分かりやすく学び、さまざまな意見が飛び交いました！

○参加者の感想

- ・避難グッズは、災害が起こってからでは準備出来ないなので、家に帰って準備しようと思った。
- ・大和川は昔に洪水が多かった事を知らなかった。
- ・普段遊びに行くような場所も昔は海だったのがびっくりした！

令和7年度も実施予定

大和川河川事務所の取組状況

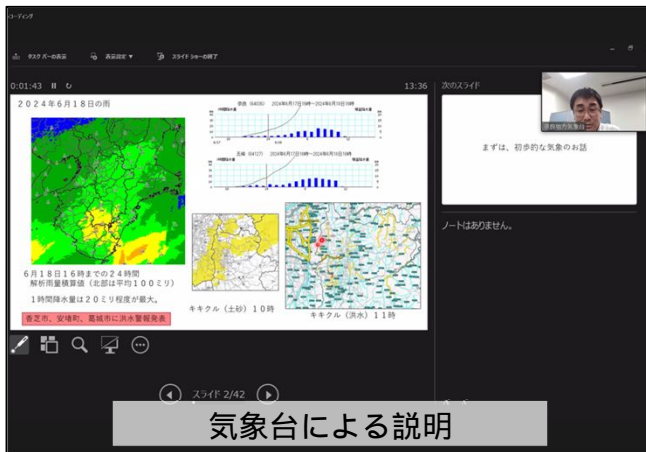
【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援 (Phase1～5に向けて)

取組機関名	大和川河川事務所・奈良地方気象台・報道機関
具体的取組	【No.23】水災害意識啓発の広報
主な内容	・大和川河川事務所から、大和川の特性及び事業概要、出水時における河川情報について説明 ・奈良地方気象台から、奈良県の気象特性について説明

開催概要

- 日 時：令和6年6月20日(木) 13:30～15:30
- 場 所：奈良地方気象台
- 参加機関：大和川河川事務所、奈良地方気象台、奈良県（防災統括室、河川整備課、砂防・災害 対策課）、
広陵町、香芝市、河合町、大和郡山市、明日香村、三郷町、毎日新聞奈良支局、産経新聞奈良支局、
奈良テレビ、NHK奈良放送局（対面20名、その他web参加者多数）

○ 勉強会の様子



→奈良県内の大和川の氾濫特性や大雨に備えるために住民に確認して欲しい河川情報について、NHK奈良放送局より取材依頼があり、6月25日に放送されました。（<https://www.nhk.or.jp/nara/>）

○ 参加者の感想

- ・ 先日6月18日の降雨では、大和川の水位上昇が急激であったように見受けられたが、流域の特性などその理由について教えてもらい勉強になった。
- ・ 報道機関、気象台、河川管理者との交流・意見交換ができて良かった。今後も引き続き同様の機会を持ちたい。また、現場を見てもらいながらの意見交換等も行えたら良いと思う。
- ・ 気象台の予報業務がどのように実施されているかを見ることができ、参考になった。

大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援 (Phase1～5に向けて)

取組機関名	大和川河川事務所
具体的取組	【No.23】水災害意識啓発の広報
主な内容	・各ブースで学び、スタンプラリーを回った方には自分でできる流域治水グッズを進呈 ・小学生でもわかるマイタイムライン（避難計画）の作成キットの配布 ・イベントブース内でいざという時の避難行動

○開催概要

- 日 時：令和6年8月4日(日)～5日(月) 10:00～18:00
- 場 所：イオンモール大和郡山 1階 北小路コート
- 一般参加：599人（スタンプラリー+アンケート回答者）

○イベントの様子



流域治水の紹介動画

流域治水がわかる動画を見て理解してもらい、住民の皆さんに流域治水をしてもらいました



大和川流域番地

大和川のどこにいいのか分かるサイト(大和川流域番地)で、お住いの近くの川の名前と大和川とのつながりを知ってもらいました



流域治水模型での実験

奈良県の大和川流域を立体的に表した模型で、流域治水対策のある時とない時で水被害がどれだけ減るか視覚的に体験してもらいました



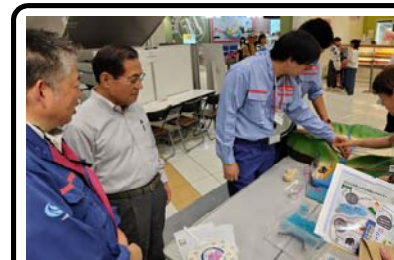
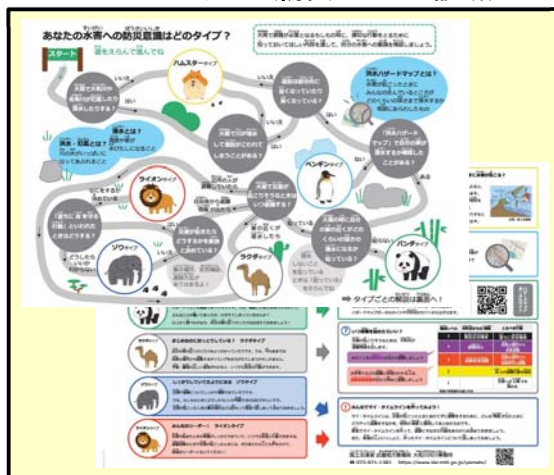
マイタイムライン(避難計画)の作成

もし実際に水災害が起きた時にどのように避難するか計画を立ててもらい、お住まいの地域のハザードマップをお渡ししました
小学生向けに、夏休みの自由研究としても使える避難計画作成キットを活用し、水災害への理解や避難計画を作成してもらいました

●【配布物】小学生向けの避難計画作成キット



●【配布物】動物のイラストを用いた防災意識アンケート(防災アニマル診断)



大和郡山市長も
ご来場されました

流域治水グッズ



○参加者の感想

- ・とても分かりやすかったです。一人一人の心がけが大切だということが分かりました。ありがとうございました。
- ・今迄、災害とは無関係な感じだったが、これからは考えていこうと思う。なかなか面白かったです。
- ・模型がとても分かりやすくイメージしやすかった。

令和7年度も流域の施設で実施予定

大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援 (Phase1～5に向けて)

取組機関名	大和川河川事務所
具体的取組	【No.23】水災害意識啓発の広報
主な内容	- 避難の必要性や大和川流域の地形的特徴、浸水想定区域、避難に係る情報収集の方法などを説明 - 自分の防災意識レベルがわかる防災意識アンケートを配布し、防災意識向上を図るとともに、マイ・タイムライン（防災行動計画）が作成できる「マイ・タイムラインノート」を配布

○開催概要

【日 時】令和6年10月5日(土) 14:00～14:50

【場 所】医療法人西中医学会 西中介護老人保健施設ヴィーブルジョワ

【参加者】地域住民（大阪市東住吉区及び住吉区）20名、東住吉区及び住吉区内の要配慮者施設職員8名

○講習会の様子



事務所による説明



東住吉区役所による質問回答



講習会の状況

●【配布物】マイ・タイムラインノート



○参加者との主なやりとり

○大雨警報が発表されたら避難すると考えて良いのか。

⇒大阪市より河川の水位情報に基づいた警戒レベル3～4相当の避難情報が発表された際は命を守ることを最優先し、東住吉区の防災マップに記載されている学校の3階以上や、市営住宅等の水害時避難ビルに避難してほしい。

○区境に居住しているが、近ければ隣の区の避難所に避難してもよいのか。

⇒隣の区にある避難所へ避難してもよい。しかし、避難所では当該区の情報が取得しやすかったり、自治会で安否確認を行うこともあるので、状況が落ち着いた後に自分が居住する区の避難所へ移動するとよい。

○介護が必要な人はどこに避難すれば良いのか。

⇒指定避難所には福祉避難室が開設されるので、まずは近隣の指定避難所へ避難いただきたい。しかし、定員オーバーにより全ての要介護者が福祉避難室に入れないこともあることをご理解いただきたい。

○危険が迫っていても避難しようしない同居家族や近隣の高齢者に対して有効な声かけはあるか。

⇒避難しない場合のリスクについて、感情に訴えるのも一つの方法である。

○大雨が降ったときの大和川の水位はどこで見たら良いのか。

⇒川の防災情報等webサイトや困難な場合はTVのデータ放送（dボタン）でも見る事が可能。

大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援 (Phase1～5・率先避難者に向けて)



水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	大和川河川事務所・大阪市住吉区
具体的取組	【No.20】住民一人一人の避難計画・情報マップの作成促進
主な内容	・近年の気象災害と情報の活用に関する講座 ・マイ・タイムラインの作成

○開催概要

- 日 時：令和7年2月1日(土)
14:00～16:00
- 場 所：大阪市住吉区役所
- 参加者：74名（大阪市住吉区民）
- 講 師：気象予報士 奈良岡 希実子氏
気象予報士 澤 麻美氏



気象予報士
奈良岡 希実子氏



気象予報士
澤 麻美氏



橋 住吉区長

○講習会の様子



講習会の様子



マイ・タイムラインの作成（気象予報士 澤麻美氏）

○参加者の感想

- ・マイ・タイムラインは、具体的にどう行動することが良いかわかったと思う。
- ・マイ・タイムラインを作成することで、前もっての順番が整理でき、避難行動を起こしやすい。
- ・高齢者が同居しており、今回の講習会により改めて考えることができた。
- ・避難など家族内で共有することにより、家族お互いが最低限自分を守ることができるため、家族や近所の方などにマイ・タイムラインの作成を勧めたい。
- ・気象予報士（水害の専門家）がスクリーンによる解説してくれて、図とトークで理解ができた。

○水平展開に向けた取組

- ・田原本町で実施したマイ・タイムライン講習会（R6.9）の講習会運営の流れをとりまとめた動画を作成し、減災対策協議会担当者会議（R6.12月）で共有した。



大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援 (要配慮者利用施設に向けて)

取組機関名	大和川河川事務所・大阪市東住吉区
具体的取組	【No.21】要配慮者利用施設の避難計画作成の促進および避難訓練の促進支援
主な内容	・要配慮者利用施設の避難訓練の運営支援・訓練に関する助言

○ 訓練概要

【日 時】令和6年10月5日(土) 15:15～16:10

【場 所】医療法人西中医学会 西中介護老人保健施設ヴィーブルジョワ サービス付き高齢者向け住宅リアンド ヴィーブル

【参加者】施設職員 15名

○ 訓練までの背景

：事前打ち合わせ

<施設職員>
これまでの避難訓練では、**いつも同じ訓練**を実施している。

<河川事務所>
避難の実行性を高めるためには、**訓練で行動内容を明確化**させることが重要です。各職員の役割を決めるために、**班を設定**してみたいかがでしょうか。

①全体を指揮する「統括指揮者」
②情報収集や伝達を担当する「情報連絡班」
③利用者の避難支援を担当する「避難誘導班」
④避難に必要な設備や装備品等を点検し準備する「装備品等準備班」

：机上訓練

<施設職員>
いただいた助言を踏まえ、作成したタイムラインの読み合わせを行い、**各職員が洪水時のイメージを持つ**ことができました。

<河川事務所>
皆さんは、**各班の行動が同時に行われている**ことをイメージできますでしょうか。施設全体の避難行動を整理するために、**施設タイムライン**を作成してみたいかがでしょうか。

要配慮者利用施設
タイムライン

：実動訓練 施設タイムラインを用いた実動訓練の実施

○ 訓練の様子



○ 施設職員によるふりかえり

- ホワイトボードやノートに行動の記録を行うことで、避難の進行状況の把握や今後の改善に役立つと実感した。
- 今回初めて班編成を行った上で避難訓練を実施したが、班編成及び役割分担を行うことで「誰かがやるだろう」というのが無くなった。また、指揮者等少人数で訓練のシナリオを考えていたが、各班で考えるようになり、職員の意識が高まった。
- 班と本部の連絡については携帯電話を使用していたが、本部が他の班と連絡していると連絡がとれない場合があるため、無線等を活用しても良いかも知れない。

○ 水平展開に向けた取組

- ① 要配慮者利用施設の実動訓練の様子をとりまとめた動画を作成し、減災対策協議会担当者会議（R6.12月）で共有した。
- ② 訓練を踏まえ、施設職員の行動整理や、自治体等職員の施設側の出水時行動の流れ把握等で活用する要配慮者利用施設タイムラインシートの行動拡充を行った。



大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】 行政機関の防災体制整備 ／ 【2. 防ぐ】

取組機関名	大和川河川事務所・減災対策協議会構成メンバー
具体的取組	【No.11】タイムラインに基づく訓練の実施 【No.34】水防団（消防団含む）との伝達訓練の実施
主な内容	・出水に備え、FAX、電話およびWEBホットラインによる河川水位などに関する情報伝達訓練

開催概要

- ・日時：令和6年5月8日（木）～5月9日（木）
- ・場所：大和川河川事務所・WEB会議システム
- ・参加者：減災対策協議会構成メンバー

訓練シナリオ・活用資料

● 訓練シナリオ

訓練前日 (5月8日)	16:00	中国・四国地方に線状降水帯の予測発表
	16:30	メールにより、WEBホットラインの開始を周知
	17:00	WEB会議ログイン 5月9日の訓練予定の周知
訓練当日 (5月9日)	8:30	水位予測情報をメールで共有
	9:30	水位予測情報をメールで共有(各鉄道事業者)
		洪水予報(柏原・板東) 水位到達情報(保田・番条) 水防警報(柏原・板東・保田・番条) を適宜発表、伝達確認 → FAXの着信確認
	10:30	氾濫危険情報発表によるWEBホットライン実施をメールで周知
	11:00	WEBホットラインの実施 ＜情報提供内容＞ ①現在の水位状況 ②今後の水位上昇と降雨状況 ③上下流の状況 ④現地状況(河川空間監視カメラ映像) ⑤類似する過去の出水 など
		首長等とのホットライン(電話)の実施 実施自治体は事前調整により決定させていただきます
		WEBホットラインの録画データ・活用資料をメールで送付
		訓練終了
		WEB会議ログアウト
		WEBホットライン運用方法の訓練に関するアンケートを実施

< 凡例 >

□ : 与条件 □ : 対応行動(河川事務所) □ : 対応行動(構成メンバー)

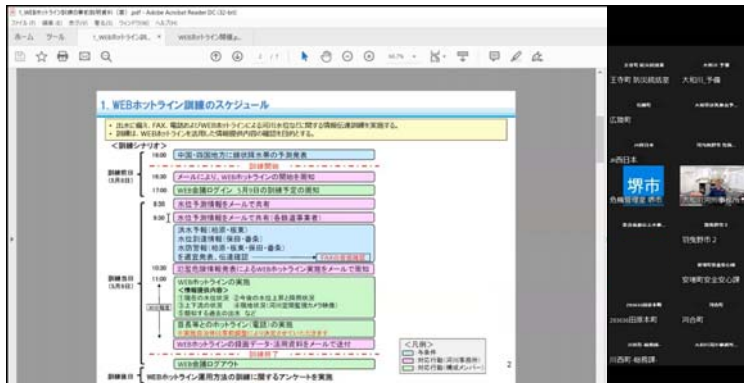
● 活用資料

WEBホットラインの運用方法(案)
WEBホットライン運用方法(案)
流域タイムライン

訓練の様子



< 氾濫危険情報発表時のWEBホットライン(5月9日) >
(大和川河川事務所災害対策室)



< WEB会議接続開始時_5月8日 >

大和川河川事務所の取組状況

【2. 防ぐ】

取組機関名	大和川河川事務所・減災対策協議会構成メンバー
具体的取組	【No.38】重要水防箇所の情報共有と関係市町等との共同点検の実施
主な内容	・出水時にいち早く危険水位や越水する水位に達する自治体毎の危険箇所の位置の確認 ・危険箇所の状況を把握できる危機管理型水位計や簡易カメラ位置の確認

開催概要

○ 日 時：令和6年4月24日(水)～5月14日(火) 合計6回

○ 場 所：大和川、佐保川、曾我川の危険箇所（越水）、危険箇所（避難）

○ 参加機関：【奈良県】 12機関

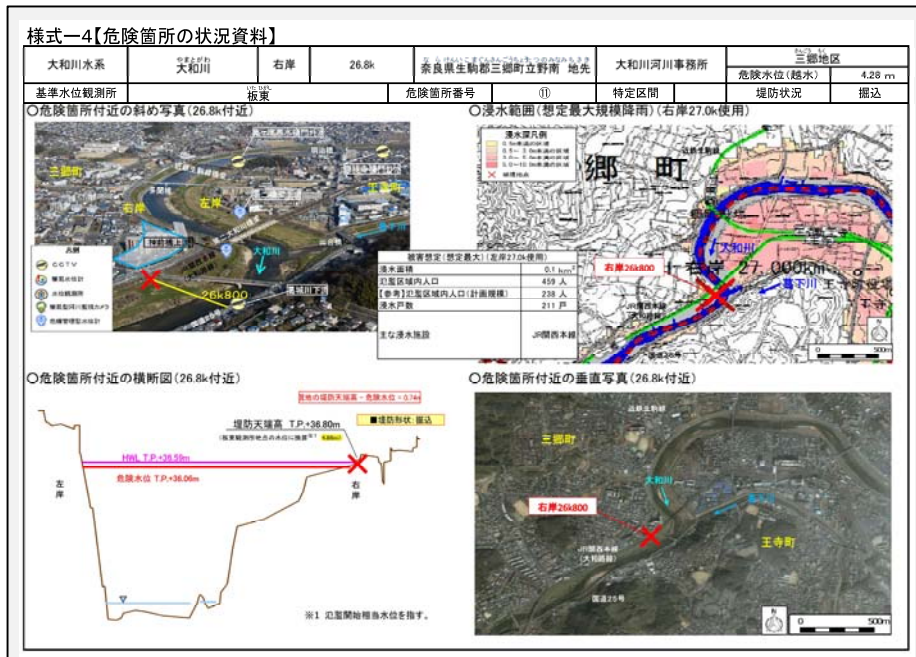
奈良地方気象台、奈良県、大和郡山市、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、王寺町、広陵町、河合町、近畿日本鉄道株式会社

【大阪府域】 12機関

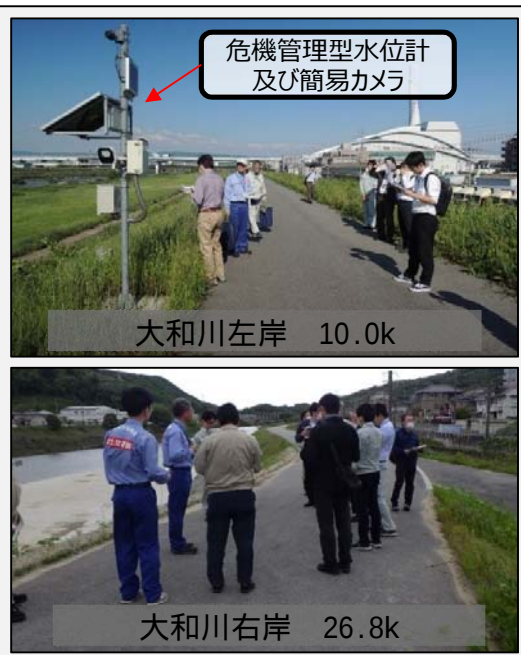
大阪管区気象台、大阪府、大阪市、堺市、八尾市、松原市、柏原市、藤井寺市、近畿日本鉄道株式会社、大阪市高速電気軌道株式会社、南海電気鉄道株式会社、大和川右岸水防事務組合

○ 活用資料・合同巡視の様子

● 活用資料



● 合同巡視の様子



○ 参加者の感想

- ・ 6月1日からの出水期前に、危険箇所や危険箇所での想定氾濫区域を確認できた。出水期に向けて準備を行ってきたい。
- ・ 職場内でも、危険箇所の情報を共有していきたい。
- ・ 当該市域にない危険箇所でもいち早く越水することで、氾濫が広がり、浸水する恐れがあることを確認できた。避難に関する情報として活用したい。
- ・ 4月の異動で、大和川の危険箇所を理解していなかったが、合同巡視に参加でき、水位上昇でいち早く危険になる箇所を確認できたことで、今後の出水期に備えたい。

大和川河川事務所の取組状況

【3. 回復】

取組機関名	大和川河川事務所・川西町
具体的取組	【No.44】排水に関する訓練の実施
主な内容	・排水ポンプ車・排水作業準備計画の説明内水調整池から飛鳥川への排水訓練

開催概要

- 日 時：令和6年12月23日(月)
- 場 所：川西町保田地先 内水調整池
- 参加者：15名
 - ・大和川河川事務所職員
 - ・川西町職員



○ 排水訓練の様子

排水作業準備計画の説明



排水の様子



○ 参加者の声

- ・ 実際の排水能力を見て、非常時には大きく期待できると思った。
- ・ 訓練することによって、排水作業準備計画のイメージが明確になった。

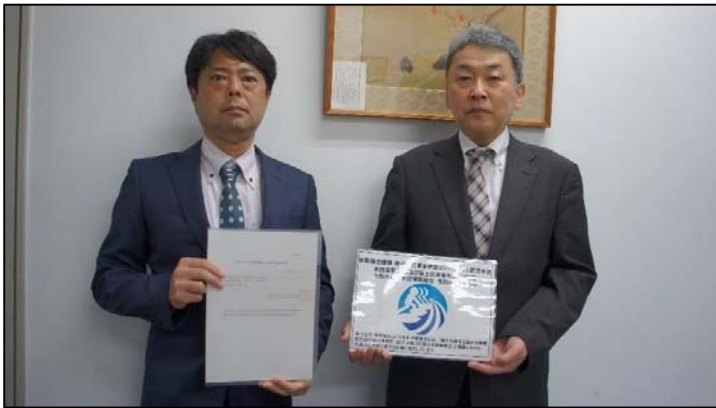
大和川右岸水防事務組合の取組状況 (水防協力団体加入)

取組機関名	大和川右岸水防事務組合、株式会社大塚ウエルネスベンディング 関西支店、株式会社東京建設コンサルタント 関西本社
具体的取組	水防協力団体への加入
主な内容	水防団の広報活動協力

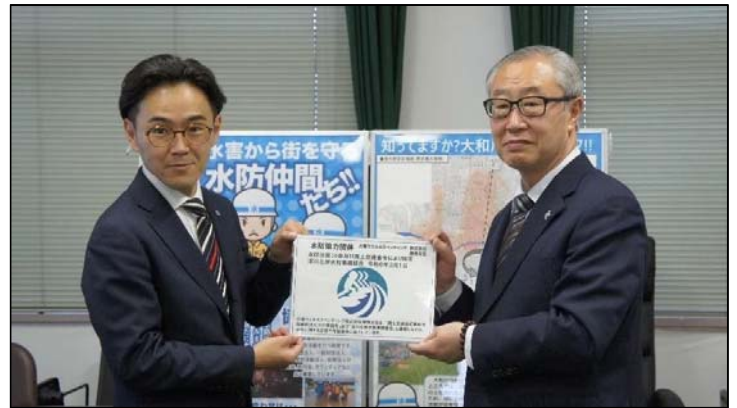
○ 内 容

- ・ 加入組織：株式会社 大塚ウエルネスベンディング 関西支店
株式会社 東京建設コンサルタント 関西本社
- ・ 概 要：大和川右岸水防事務組合は、民間企業2社より水防団の広報活動にご協力いただける水防協力団体の申請を受けこれを認定した。

○ 状 況



株式会社 東京建設コンサルタント 関西本社
令和6年3月8日 水防協力団体 認定



株式会社 大塚ウエルネスベンディング 関西支店
令和6年3月8日 水防協力団体 認定

○ 活動内容

- ・ 株式会社 大塚ウエルネスベンディング 関西支店
自販機等を活用した水防団員募集ポスターなどの広報協力
- ・ 株式会社 東京建設コンサルタント 関西本社
社内掲示板への水防団募集ポスター・チラシの掲示



水防団募集
チラシ掲示
(社内受付)



水防団募集
ポスター掲示
(エレベーター)

○ 今後の取組

- ・ 新規作製した、水防団員募集ポスター・チラシへの掲載更新を予定している。

大和川右岸水防事務組合の取組状況 (大阪市立デザイン教育研究所との連携)

取組機関名	大和川右岸水防事務組合（淀川・大和川右岸水防事務組合連合会）、大阪市立デザイン教育研究所
具体的取組	大阪市立デザイン教育研究所との連携
主な内容	水防団員募集ポスター等の製作

○ 内 容

- ・ 連携組織：大阪市立デザイン教育研究所
- ・ 概 要：淀川左岸水防事務組合・淀川右岸水防事務組合と共同し、水防事業、水防団に関する認知度向上等を図ることを目的に令和6年3月18日付けで大阪市立デザイン教育研究所と連携協定を締結しました。今後、水防事業や水防団について、大阪市立デザイン教育研究所の授業のカリキュラムに組み込みながら、ポスターなどの課題制作を通じて啓発活動にご協力いただけることとなりました。

○ 状 況



（右）長谷川大阪市立デザイン教育研究所所長との連携協定の手交



水防活動促進プロジェクト

○ 活動内容

- ・ 水防活動促進プロジェクトに基づく、大阪市立デザイン教育研究所の生徒によるポスター等デザイン制作



水防団募集ポスター



水防団募集チラシ

○ 今後の取組

- ・ 新規作製した、水防団員募集ポスター・チラシへの掲載更新及び関係機関への配布を予定している。

大和川右岸水防事務組合の取組状況 (水防訓練)

取組機関名	大和川右岸水防事務組合、大阪市建設局
具体的取組	水防訓練
主な内容	水害の備えとして、土のう造り及び水防工法施工の訓練を実施

○ 内 容

- ・ 日 時：2024年6月8日（土）
- ・ 場 所：大阪府藤井寺市川北3丁目地先 大和川河川敷公園
- ・ 参加者：188名（水防団員169名、大阪市建設局16名、水防協力団体 東住吉区介護保険関係者連絡会3名）
- ・ 概 要：関係機関と共同で水防技術の習得及び集団での水防工法を実施

○ 状 況



水防訓練 開会式



大阪市建設局による水防工法施工



水防団員による水防工法の成果視察



水防協力団体による看護師の派遣

○ 訓練後の感想

- ・ 訓練後、実施アンケートより水防団にて訓練総括を行い、課題点より改善項目より改善方法を共有し、水防技術の習熟強化並びに指揮・指導力の向上に努めた。
- ・ 水防協力団体より、訓練時における怪我人救護に看護師の派遣協力を得た。

○ 今後の取組

- ・ 次年度においても関係機関と共同し同様の訓練を定期的実施し、水害に備えた水防技術の維持強化に努めたい。

大和川右岸水防事務組合の取組状況

(水樋門鉄扉操作訓練)

取組機関名	大和川右岸水防事務組合、西大阪治水事務所、大阪港湾局、大阪市各区警察署・消防署・区役所、鉄扉利用者
具体的取組	水樋門鉄扉操作訓練
主な内容	水害（津波・高潮）の備えとして、水門・樋門・鉄扉の開閉操作訓練を実施

○ 内 容

- ・ 日 時：2024年7月25日（木）10時～16時
- ・ 場 所：大阪市住之江区・西成区の各水門・樋門・鉄扉
- ・ 参加者：水防団員55名、西大阪治水事務所、大阪港湾局、住之江警察署、住之江消防署、住之江区役所、西成警察署、西成消防署、西成区役所、鉄扉利用者（東芝ロジスティクス、ハンシン建設、新来島サノヤス造船、ダイゾー造船木津川工場）
- ・ 概 要：関係機関と共同で水門・樋門・鉄扉の開閉操作訓練を実施

○ 状 況



住之江区 水門開閉操作



住之江区 鉄扉開閉操作



西成区 鉄扉開閉操作



西成区 鉄扉開閉操作

○ 訓練後の感想

- ・ 水門鉄扉管理者の西大阪治水事務所及び大阪港湾局による更新された鉄扉の操作説明を受け、水防団員による開 閉 操作を実施し、各区防災機関及び鉄扉を鉄扉利用する企業と共に、水害（津波・高潮）に備えた訓練を行えた。

○ 今後の取組

- ・ 次年度においても関係機関と共同し同様の訓練を実施し、津波・高潮対策の情報共有及び連携に努めたい。